

**2017年度の温室効果ガスインベントリー（確定値）**

「環境エネルギーネットワーク21」主任研究員 作井 正人

2017年度の温室効果ガス排出量（確定値）が4月16日に環境省より公表され、総排出量は12億9,200万tCO<sub>2</sub>で、前年度比1.2%減、2013年度比8.4%減で、総排出量は4年連続で減少しました。

2013年度と比べて排出量が減少した要因としては、HFCsの排出量が増加した一方で、省エネ等によるエネルギー消費量の減少、太陽光発電及び風力発電等の再生可能エネルギーの導入拡大や原子力発電所の再稼働等によるエネルギーの国内供給量に占める非化石燃料の割合の増加等のため、エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量が減少したこと等が挙げられます。

各温室効果ガスの排出量の推移は下図のとおりでHFCが占める量が多い。

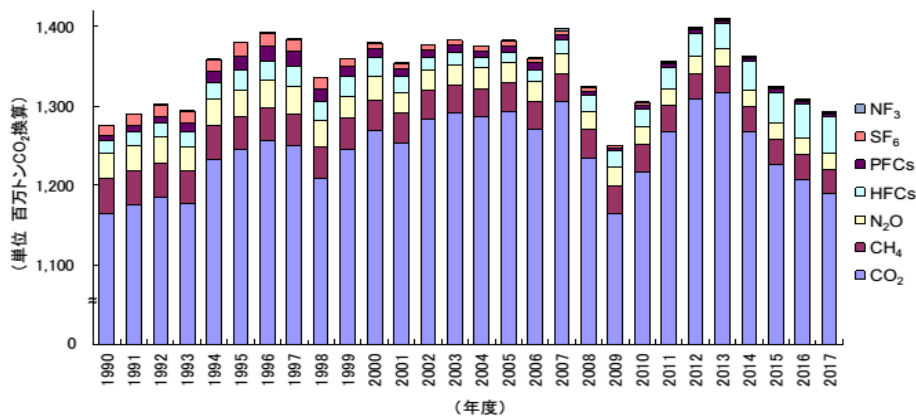


図2 各温室効果ガスの排出量の推移

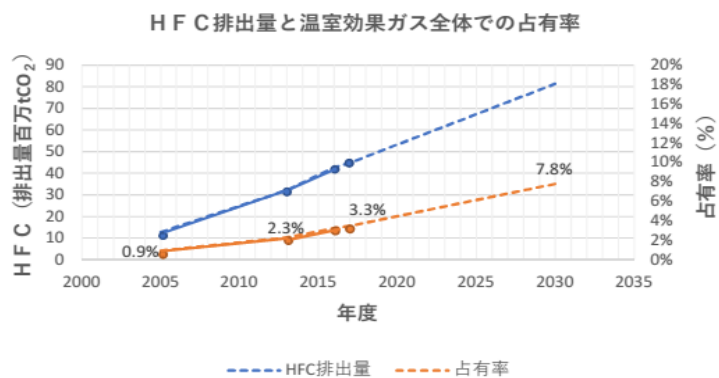
2005年度から2017年度の全排出量とHFCの排出量、その占有率は下表となります。

単位：百万 tCO<sub>2</sub>

年度	全排出量	HFC 排出量	占有率
2005	1,382	12.8	0.9%
2013	1,410	32.1	2.3%
2016	1,308	42.6	3.3%
2017	1,292	44.9	3.5%

2030年度における全温室効果ガスの削減目標は2013年度比26%であるので全排出量は1,043百万tCO<sub>2</sub>以下となります。

もし、HFC排出量がこのままの増加率であったら2030年には81.3百万tCO<sub>2</sub>となり、全排出量が目標を達成した場合、占有率は7.8%にまで及んでしまいます。（占有率目標は2.0%）



なお、温室効果ガスとして国連気候変動枠組条約への提出はフロンとしてはHFCのみであり、特定フロンのCFC、HCFCは含まれていないので、フロン全体では10%を超えることになり、早急に対策を行う必要があると思います。